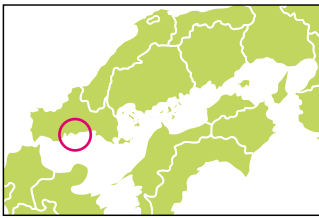


事業主体：山口県

再生課題：干潟の再生



# ふしのがわひがた 榎野川干潟

再生  
目標

人が適度な働きかけを継続することで自然からの恵みを持続的に享受できる場、『里海』を再生する



榎野川下流域の干潟は、渡り鳥のクロスロードとなっており、日本の重要湿地 500 にも選ばれています。さらに、絶滅危惧種であるカブトガニの生息地であり、全国的にも重要な地域となっています。しかし、浮泥の流入、富栄養化等によるカキの異常発生、採貝耕耘機会減少による干潟の硬質化、アマモ場の激減など、干潟生態系の改変・改質が生じています。このため、榎野川河口域・干潟の自然環境を再生し維持していくための取組みを進めています。

**DATA**  
エリア：自然公園区域外  
所在地：山口県山口市  
着手：H14

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

概要：榎野川河口域・干潟等の自然環境の再生・維持を検討。

設立日：H16.8.1  
構成員数：57  
全体構想作成日：H17.3.31  
実施計画作成日：未作成  
(H21.3 現在)

## 自然再生の手法

- ▶ カキ殻の粉碎、土砂の交換などによる底質環境の改善→①
- ▶ 干潟に対する働きかけが持続される体制づくり

カキ殻高密度分布域でのカキ殻粉碎と耕耘

砂干潟区域での耕耘



カブトガニ



耕耘混合砂工法



カキ殻粉碎耕耘工法



うね耕耘(平行)作業



丸竹の設置

事業主体：佐賀県

再生課題：湿原の再生



# かしばるしつげん 榎原湿原

再生  
目標

昭和中期頃の湿地植生を再生し、人為活動との適切な関係を再構築



ハッチョウトンボ

榎原湿原は面積約 120ha の湿地で、貴重な湿原植物、昆虫などの宝庫であり、継続的な人為的管理により自然遷移が抑制されてきました。しかし、昭和 46 年開設の七山村道による湿原の分断、野焼きやオオミズゴケの除去等の中断により、開放水面の減少や、陸化が進行しています。このため、特定植物の繁茂や枯れた植物体の堆積といった自然遷移の進行により、悪化している湿地環境を良好な状態へと再生することを目的とした取組みを進めています。

## 事業実施区域



**DATA**  
エリア：自然公園区域外  
所在地：佐賀県唐津市  
着手：H 14

榎原湿原地区自然再生協議会

概要：自然遷移の進行により悪化している湿原環境を良好な状態へ再生。

設立日：H 16.7.4  
構成員数：36  
全体構想作成日：H 17.1.26  
実施計画作成日：  
● H 17.3.31 (榎原湿原地区/佐賀県)  
(H 21. 3 現在)

## 自然再生の手法

- ▶ 段階的な植生除去→①
- ▶ 侵入した灌木の除去
- ▶ 湿地を分断している村道移設(検討中)



ミズゴケ等の堆積により陸化が進行



浚渫および植生の抜き取りを実施



開放水面の拡大により多様な植生が回復

関連ホームページ

榎野川河口域・干潟自然再生協議会：<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html>